

令和元年第3回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

令和元年6月25日(火曜日)

議事日程第4号

令和元年6月25日(火曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平	澤	惣一郎	君	2番	東	野	恭	行	君
3番	山	本	剛	君	4番	吉	川	慶	一	君
5番	中	村	実	君	6番	滝	川	正	義	君
7番	佐	藤	孝	君	8番	新	保	峰	孝	君
9番	田	原	実	君	10番	保	坂		悟	君
11番	笠	原	幸江	君	12番	斉	木		勇	君
13番	高	澤	公	君	15番	田	中	立	一	君
16番	古	川	昇	君	17番	渡	辺	重	雄	君
18番	松	尾	徹郎	君	19番	五	十	嵐	健一郎	君
20番	吉	岡	静夫	君						

〈欠席議員〉 1名

14番 大 滝 豊 君

〈説明のため出席した者の職氏名〉



## 日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

通告書に基づき、以下の4項目について質問いたします。

質問1、地域医療の現状と課題、医療資源不足への市民理解について。

12年前の平成19年6月5日、姫川病院が突然の閉院。市民は混乱し、地域医療体制は崩壊の危機に立たされました。そのとき、新潟日報社説には、医師不足と財政難による病院破綻が現実のものとなった。地理的に近い富山大学からの医師の派遣が困難となり、診療科を縮小せざるを得ず、患者数も落ち込んだ。医師不足問題は、もはや病院の自助努力だけで解決できないところまで来ているのではないか。国は、財政措置も含めて地域医療を支える抜本的な対策を講じるべきだ。第2、第3の姫川病院を出さないために知恵を絞りたいとあります。

この直後の議会で、私はこの事件を取り上げ、救急医療体制確保と狭心症や心筋梗塞等、循環器救急対応について質問しました。その後、病院、医師会、市長、市民の必死の対応があり、今日まで地域医療体制が確保されていますが、人口が12年前の5万200人から4万2,600人と減り、財政が厳しくなる中、この先、糸魚川の地域医療体制の確保は、ますます困難となることが予想されます。強い危機感を持ち、以下、質問いたします。

(1) 糸魚川圏域の医師看護師等医療スタッフの確保、その現状と課題について伺います。

(2) 糸魚川総合病院での診療科確保、休日夜間救急医療対応等、その現状と課題について伺います。

(3) 在宅医療、訪問看護の現状と課題について伺います。

(4) みんなで支える地域医療体制づくりについて伺います。

(5) 市で取り組む地域医療フォーラムの成果について伺います。

2、ファシリティマネジメントの推進について。

(1) 糸魚川市公共施設等総合管理計画について伺います。

(2) ファシリティマネジメントの必要性、期待できる効果について伺います。

(3) 市有施設のストックと老朽化、市民一人当たりの公共施設延べ床面積について伺います。

(4) ファシリティの「見せる化」と市民理解について伺います。

(5) 市有文化ホールの施設管理と施設経営について、ビーチホールまがたまのホールとスタジオの運営、改修について伺います。

3、広域観光連携と公共交通活用及びインバウンド対応等について。

- (1) 広域観光連携における大糸線の活用について伺います。
- (2) 広域観光連携におけるえちごトキめき鉄道と、あいの風とやま鉄道の活用について伺います。
- (3) 糸魚川駅と押上新駅に子供たちがやってくる仕掛けづくりについて伺います。
- (4) 糸魚川が全国の自転車愛好家の目的地となる取り組みについて伺います。
- (5) 糸魚川のインバウンド対応は大きくおくれをとっています。目標を定め、テーマを絞り、あらゆるネットワークを生かし、誘客を進めて、糸魚川を「世界ジオパークのまち」にふさわしい、にぎわいのあるまちにしていきたいと思えます。その現状と課題について伺います。

4、糸魚川市の責任で進める復興再生事業、雁木、にぎわい創出広場、市民公園、被災者や住民が要望する地場産食材売り場の整備について。

- (1) 街並みのシンボル、雁木の連続性と統一感について伺います。
- (2) にぎわい創出広場建物の設計変更、建設費、運営計画、利用者等について伺います。
- (3) 駅北地区市民公園整備の目的、建設費、管理費、市民からの評価について伺います。
- (4) 昨年の6月議会、12月議会、ことしの3月議会でも質問していますが、被災者の方や近隣住民の皆さんから強い要望のある、新鮮な食材が買える施設の設置について伺います。

1年前、この場からの訴えでご紹介した被災地区近隣住民の声を、いま一度ご紹介します。

被災場所に戻って生活する方や周辺地区の皆さんが、今一番困っているのは、毎日の食事の食材店が近所にないということです。町なかとは言え、ここは高齢者が圧倒的に多い。生鮮野菜、新鮮な地元のもの食べたいので、買いにいける場所が近くに欲しいと皆さんが言っています。

いろんな場面・場所で、市のスローガンなのか、安心して長く住み続けられるまちと聞きますが、食こそ人間が生きる上で、欠くべからざる大事なことです。JAの食彩館のようなところで、野菜でも魚でも肉でも、毎日の生活に必要な新鮮なものが買える場所が望まれています。加えて、そういった地元食材を使った郷土料理、郷土食を食べさせるコーナーやお店をつくったら、日常的にも観光的にも役立つと思いますので、ぜひ議会で取り上げてくださいというものでした。

1年が経過して、被災地に戻って生活を始めた被災者の皆さん、近隣住民の皆さんからの新鮮な食材が買える施設設置を望む声は、ますます大きくなっています。この切なる市民の思いに対して、高齢者に優しい、暮らしやすいまちづくりを進める米田市長の答弁を期待しています。

以上、1回目の質問です。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、医師、看護師ともに国・県平均より少ない状況であり、医師、看護師の確保に、引き続き努めてまいります。

2点目につきましては、常勤医師が不在の診療科目があり、また、休日夜間救急医療対応においては、医師会にもご協力いただき実施いたしておりますが、いずれも医師確保が課題であると考えております。

3点目につきましては、団塊の世代の高齢化に伴って、医療ケアが必要な人の増加が予想され、在宅医療、訪問看護の需要も高まり、従事する人材の確保が課題であると考えております。

4点目と5点目につきましては、市民と医療、福祉関係者、行政が協働して、地域医療体制をつくり上げることが重要であり、17年度から地域医療フォーラムを開催いたしております。今年度6月9日に開催いたしましたフォーラムでは、認知症予防をテーマとして約300名の参加があり、最新医療を含めた認知症予防の啓発ができたものと考えております。

2番目の1点目と2点目につきましては、今後の公共施設等のあり方や管理に関する基本方針を定め、適正な配置及び管理を行うことを目的として、28年3月に公共施設等総合管理指針を策定いたしました。人口減少時代において、市有施設の整備や統廃合については、マネジメントの概念を取り入れて計画的に進めていく必要があります、持続可能な行財政運営につなげるものであります。

3点目につきましては、当市の特徴として市域が広いことから、集会施設や学校、消防施設が多くなっていると同時に、合併後に整備した施設も多く、地区20年未満の施設が約4割となっております。

また、29年度末の市民1人当たりの延べ床面積は、7.2平方メートルで、県内では多いほうから6番目となっております。

4点目につきましては、31年2月に指針をもとに個別計画を策定し、現在施設の状況を見える化するため、施設カルテを作成中であり、ホームページに掲載するなど市民周知の手段として活用してまいります。

5点目につきましては、市民会館が市内4カ所の文化ホールを総合的に管理運営を行っており、施設や設備の改修につきましては、将来的な各施設の役割分担を考えながら計画的に対応してまいります。

3番目の1点目と2点目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議において、今年度、鉄道の魅力発信事業として、鉄道限定グッズがもらえるキャンペーンや輪行バッグの無料貸し出し事業を計画いたしており、鉄道利用の促進に努めております。

3点目につきましては、ジオパルや駅周辺の地域資源を生かすとともに地域のまちづくり活動とともに連携し、親子での鉄道利用の促進につなげていく必要があると考えております。

4点目につきましては、今後とも日本海を一望できる久比岐自転車道の魅力発信と受け入れ体制の整備を進めるとともに、日本の原風景が残る里山、ジオサイトをめぐるルート提案など、誘客に取り組んでまいります。

5点目につきましては、現状は、宿泊施設におけるアクティビティや文化体験などによる誘客受け入れや北アルプス日本海広域観光連携会議などを活用して、宣伝・誘客に努めているところでありますが、地域が一体となった受け入れ体制の整備と情報発信のあり方が課題であると捉えております。

4番目の1点目につきましては、景観不燃化ガイドラインに則した形で建設いただくよう機運の醸成を図っております。

2点目につきましては、機能を維持し、建設費を予算内におさめるよう設計内容を見直いたしました。広場の運用につきましては、民間事業者から行っていただきたいと考えており、市民や団体等の活動を促してまいります。

3点目につきましては、火災の広がりを防ぐとともに、火災時には一時的に避難ができる防災広場として整備いたしましたものでございます。8カ所の工事費で約2億円、管理費につきましては、今年度90万円程度を見込んでおり、防災目的だけではなくて、地域の活動や憩いの場としても活用したいというご意見も聞いております。

4点目につきましては、市としてそのような施設の設置は考えておりませんが、民間主体でにぎわい創設広場や周辺の空き店舗などを活用いただいて、マーケットや市のような形で提供いただきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域医療の2回目の質問です。

6月9日の医療フォーラムでは、市役所の職員さんたちによる劇で認知症予防を楽しく学びました。講師の講話も専門性の高い内容ながら、わかりやすいお話で参加した市民は、認知症をより深く理解できたと思います。全てに理解してほしいという気合いと工夫が感じられました。この機会に議員に詳しくご紹介いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

今回のフォーラムにつきましては、認知症の予防と支援を広く啓発することを目的に、糸魚川市在宅医療介護連携協議会と共催で開催しております。多くの職種が連携することで、楽しい認知症予防の寸劇や、フロアでの展示などの充実、これを行うことができました。

また、東京慈恵会医科大学の繁田雅弘先生の講演では、認知症予防の最新情報として、アルツハイマー病の予防はできない。しかし、症状を軽くし、進行をおくらせることはできる。その方法として、生活習慣病を予防する食事、運動、人との交流、知的刺激が必要だというふうにご紹介されておりました。

当日の参加者のアンケートからは、認知症への不安が和らいだ。趣味を持ちたい。これらの意見が多く寄せられ、認知症への理解が進められたというふう感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。今回のフォーラムをみんなで支える地域医療体制づくりの一環、また、地域包括ケアシステム推進の一環として、私は高く評価しますが、まず、その点を伺いたと思います。

あわせて、地域医療の課題と市民理解について、医療フォーラムを活用したこれからの取り組みを伺いたと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今回は、地域包括ケアシステムの推進も目的に、認知症をテーマに福祉と保健医療が連携し、開催をいたしました。地域包括ケアシステムを支える地域医療の重要性は、ますます高まっております。今後も、さまざまな保健医療問題の啓発や当市の健康問題など地域医療について市民の皆様に関心を持っていただけるよう、今回のようにテーマによっては多くの職種、多くの分野で連携し、フォーラムを開催してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

講師の繁田先生より、在宅での認知症の医療と、みとりの話がありました。認知症になっても住みなれた地域で暮らし、住みなれた家でみとられることは、本人にとってはよいことだと思います。

しかし、実際の訪問看護・訪問診療での、みとりのサポート体制はどうなりますか。

また、訪問看護事業所で看護師スタッフが不足する中で、それはかなうことなのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

ご指摘のように、病気や障害があっても住みなれた家で暮らしたい。また、人生の最期を自宅で迎えたいと望む方がふえていくと認識しております。

一方、家族だけで医療ケアができるのかなどの不安に対して、訪問看護、訪問診療のサポートというのは不可欠であります。

現状では、看護師の不足によりサポートできないということは確認しておりませんが、今後、在宅での医療ケアの需要は、高まると予測されますことから、人材の確保に努める必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

人材の確保、それからそれらの調査に関して取り組んでいただきたいと思います。

それと在宅でと言いながら、結局は病院に頼ってくるところが大きいのではないか。病院でのみとりが当たり前という感覚が、病院の負担となっているのではないかと私はと思いますが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

現状では、在宅でのみとりに不安を感じ、病院でと希望される方が多いように感じております。訪問診療、介護保険サービスを活用され、不安なく在宅でのみとりを希望される方がふえるよう今後も引き続き、在宅医療・訪問看護の充実は、重要であるというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それでは次に、医師確保と診療科確保について。

特に姫川病院の閉院で問題となった循環器の救急対応の医師は、確保されるのか伺います。

また、糸魚川総合病院では、医師確保のために樋口病院長みずから富山大学へ出向いてお願いしていると聞きますが、そういった病院の切実な状況への糸魚川市のサポートについて、病院が緊急時の市のサポートと市長対応について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

これまで糸魚川総合病院とは、医師確保について情報交換を行い、特に常勤医師不在の診療科目の医師確保対策について協議を重ねております。

また、大学との連携では、県や糸魚川総合病院と連携し、市長と樋口病院長を先頭に、富山大学や新潟大学へ要望活動を継続し、地域医療の確保・充実、救急医療体制の継続に努めてまいりたいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私もっと切実な状況を想定して聞いてるんです。そういったときの糸魚川市のサポート、それから市長対応、これをお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

先ほど田原議員から冒頭にありました姫川病院の危機への対応、これについては私、当時のことは正直詳しくは理解しておりませんが、市長、それから議会、市民が一体となってこの危機を乗り越えたんだらうというふうに考えております。今後についても、やはり市長、行政側、議会、それから市民が一体となって、また、関係機関、糸魚川総合病院とも一体となって、こういう危機があった場合については乗り越えていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

樋口病院長からは、人口減とともに医師と診療科は減っていく。これは言うなれば方程式だとお聞きしました。

しかし、医師がないよ、看護師がないよ、診療科がなくなるよ、上越か富山へ行くしかないよねと言ってるわけにはいかないと、樋口病院長が頑張ってくださいています。市長も、厚生連病院を支援する協議会的なところで、医師不足対応の旗振りをしていかれると、市長の頑張りについて伺いましたが、その後どうなりましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

厚生連病院が地域医療の核となっている村上市、小千谷市、柏崎市、妙高市、佐渡市、それと糸魚川市の県内6市から成る地域医療連携推進協議会を設立し、市長がその会長を務めております。厚生連とも連携をとる中で、地域医療を今後も継続するための医療資源の確保、医療状勢等を取り巻く課題解決などについて協議を行っており、今後、県に対して要望を行ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、改めて医療圏域での医師数について伺いたいと思います。

全国的に見て、糸魚川圏域の医師数をどう把握されていますか。心配なのは、新潟県の上越圏域の中の糸魚川というくくりだと、上越に医師は配置されているが、実際には糸魚川には医師がないという状況、これを心配いたします。この点、どう分析されていますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

本年3月に医師偏在指標の速報値が発表されました。新潟県は、全国で下から2番目となっております。

り、二次医療圏では、上越圏域は全国で下位の3割に属する医療少数区域となっております。

この指標については、市町村単位のもの公表されておきませんので、10万人当たりの医師数で比べてみますと、糸魚川市については、やはり全国的にも少ない状況となっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、あわせて医療圏域での看護師数について、厚生連の病院における看護師の配属について。糸魚川での慢性的な看護師不足への対応について、詳細を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

看護師数につきましても、人口10万人当たりで比較しますと、全国平均と比べ少ない状況であります。

糸魚川総合病院に今年度配属された看護師は9名で、うち5名の方は市内の出身でありますけども、4名の方は市外の方とお聞きしております。

また、人員確保のため、ベトナム人、外国人の看護師等候補者6名を受け入れる予定とのことであり、糸魚川総合病院にとりまして、看護師確保というのは重要な課題となっております。

市の看護師確保の対策としましては、修学資金貸付制度のほか、病院や県と連携して取り組んでいる医療関係職員定着支援事業の中で、看護大学等への進学者を訪問して、糸魚川への就職を呼びかけるなど看護師の確保に努めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川市の医療人材育成の制度設計は、進んでいると思います。これは米田市長に感謝いたします。その上で、子供たちが看護師を目指すモチベーションを育てることや、親にそれを訴えることは行政の仕事であり、みんなで支える地域医療体制づくりの推進だと思います。この点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

看護師を目指す人材育成事業は、重要であると考えております。小中学生を対象とした出前講座や高校生の1日病院体験を継続し、高校生や、その保護者に看護職の仕事としてのやりがい、それから支援制度を紹介する取り組みを継続するなど、1人でも多くの方が看護師を志していただける

よう今後も努めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

一方で、看護師になった方が、ほかでも働きたいと希望すれば、必ずしも糸魚川にい続けるとは限りません。看護師育成支援策が、効果があるかどうかの検証も必要となってまいります。この点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

医療技術者修学資金貸与事業では、看護師を志す方へ貸与させていただいたうち、約6割の方が市内に就業しており、地元定着に一定の効果を上げているというふうを考えております。引き続き、より多くの方から看護師を志していただき、1人でも多く地元定着していただくよう今後も施策を講じていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

看護師育成の支援体制があることの周知と活用を糸魚川総合病院と一体で取り組んでいただきたい。また、先進的な医師育成の支援があることも、地元学校と親への周知に頑張ってください。こういったことをこつこつと積み上げながら、自分も地域医療を担う一員であるという意識を子供たち、市民、行政の皆さんで共有し、広げていくことが、あすの医療を守ります。

最後に、米田市長の考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

地域医療の重要性は、改めて言うまでもなく、もうご承知のとおりであるわけでありまして、そういうことの中で、この人口減少、そして高齢化社会を迎えておるわけでありまして、そういうことの中で、非常に地域医療の現場は厳しい環境にあるわけでありまして、そういったところをやはりこれからも市民の皆様方と情報共有しながら、この医師不足や看護師不足を対応していかなくてはならないと思っております。

また、この診療医制度が、再度変更になる状況にあるわけでありまして、そういった危機意識をどのように持っていくのか、そして、これからの団塊の世代が高齢者になっていくこの時代に、どう対応していけばいいのかという大きな課題もあるわけですので、そういった地域医療

の現状、そしてまた、担っていただいております病院や医師会の状況等もやはりしっかりと連携をとって、情報交換をして、対応していかなくてはいけないときに入ってると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

医療を守る米田市長の頑張りにご期待申し上げます。よろしく願いいたします。

では、ファシリティマネジメント推進について、2回目の質問です。

ファシリティマネジメントの必要性については、市が有する公共施設が数多くあり、施設の維持管理と運営に多額のコストがかかりながらも、活用が低調で人件費もそうですが、高額な固定費が支出され続けることへの対策として、糸魚川市の行財政改革の最重要課題と私は認識しています。その点について、行政の認識を議会と市民に向けて、かみ砕いて説明していただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

市長の答弁にもありましたように広い市域を抱えておりまして、また、集落が点在する中、人口規模に対しまして多くの公共施設を有しております。現時点において、すぐに統合とか廃止ということで取り組んでいるわけではありませんけれども、交付税も減少し、自主財源が乏しくなっていく、厳しくなっていく状況の中で、選択と集中というものが非常に重要になっていると考えております。施設のあり方というものを考える中で、この計画を進め、施設の長寿命化、また計画的な維持管理も進めていく中で、このファシリティマネジメント、公共施設をこれからの維持管理をしていくためにしっかりした計画を立て、また、市民の皆さんにも公表し、同じ目線で情報を共有して、公共施設のあり方をともに考えていく第一歩にしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、ファシリティマネジメントの推進により、期待できる効果について、もう少し踏み込んでお話しいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

やはりこれから施設カルテなどを公表する中で、市民の皆さんに今ある施設の現状というものを

しっかり公表して、どれくらいの利用があり、どれくらいのコストがかかり、また、どれくらい  
の負担をしていただいているのかということ、他の市町村の公共施設とも比較しながら見ていただ  
くことによって、同じ目線で施設のあり方というものを検討していくために効果を発揮させなけれ  
ばいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ファシリティマネジメント推進の目的は、次世代の負担軽減です。私は、5月20日にファシリ  
ティマネジメントに取り組む先進地調査で、千葉県佐倉市へ伺い、丁寧な説明を受けてきました。  
その中で、住民1人当たりの公共施設床面積の話で、佐倉市は1人当たり2平米、そして糸魚川市  
は何と7.2平米という数字を聞いて、基礎的な財政力に乏しく、今後の人口減と交付税減が確定  
してる糸魚川市の将来を改めて心配しました。この点について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

千葉県の佐倉市とは、また地理的条件とか人口密度など、かなり違う面もありますので、必ずし  
も人口1人当たりの面積だけで全てを比較するという事は難しい面もあるんだろうと考えており  
ますけれども、やはり身の丈に合った、財政力に合った施設のあり方というものが考えていかなけ  
ればならないのは重要な面があると考えております。公共施設の適正化計画、長期財政見通し、こ  
ういったものがきちっと整合性があるものにしていくことが、30年先も持続可能なまちづくりの  
ために欠かせないことであると理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

少し具体例を出しますが、次世代への負担軽減を考えるとすれば、今建設中の次期ごみ焼却施設  
は、将来に向けて、その維持管理運営は糸魚川市民に大きな負担を強いるものではないですか。こ  
の点を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

担当課からもらっております維持管理費につきましては、今年度のごみ処理施設については5億  
2,000万程度、新年度、新しいごみ処理施設については3億7,000万程度ということで、今

現在よりは圧縮した形にできるのではないかなと期待しているところではありますが、こういったごみ処理施設については、市民生活に必要な施設でありますので、適正に維持管理していくことが必要不可欠であると考えております。少しでも効率的な維持管理ができますように、また、ごみ全体の量を減らしていくことができないか、環境にも財政にもよい方向に持っていけるように取り組んでいかなければいけないと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

しかし、議会で示されたランニングコストですけど、たしか20年間で80億超ですかね。そこをもう一回確認したい。

それから、これが経常的支出の割合を押し上げる一方で、真水で使える予算を圧縮していくことにはなりませんか。この点いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えします。

ランニングコストにつきましては、今ほど財政課長が申し上げましたように契約額では20年間で、税抜きではございますが、73億8,000万円となっております。この今ほど申し上げました単年度では、3億7,000万円程度となります。こちらのほうの経費につきましては、今後、ごみの減量等を進める中で、少しでも削減できる方法がないか見ていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

経常的経費の割合を押し上げる原因になるというのは間違いないことでありまして、維持管理費、毎年毎年、経常的にかかってくるお金というものが自由に使える臨時的な政策的な経費を圧縮していくということは、間違いありませんので、こういった経費を少しでも圧縮して行って、計画的な長寿命化計画ですとか、環境にも財政にもよい方向に向かっていくように、しっかり目配りしていくことが必要であると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひそのようにお願いしたい。

先ほど医療問題について伺いましたが、公共施設を維持管理していく経常的なお金が、どんどん

大きくなり、一般財源のうち、フリーに使えるお金が少なくなると、近い将来において医師確保とか病院の運営に出していくものがカットされるときが来るのではないかと心配しますが、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

行政が果たす一番大事な役割として、国も県も市も、やはり住民の皆さんの生命と財産を守ることが1丁目1番地だろうと考えております。予算の範囲内という前提はつきますけれども、医療や健康を守るための予算は、優先順位は高いものだと理解しております。

こういった必要な予算措置ができるように健全な財政運営を進めていくことが、持続可能な地域行政のために必要不可欠であると認識をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、ファシリティの見せる化について伺います。

先ほど市長から施設カルテをつくって、使ってという話が出たと思いますが、この点、担当課から詳細に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

お答えいたします。

近日中に、今ホームページに上げる準備をしているところであります。その施設の利用状況ですか、維持管理経費、あるいは使用料をどの程度いただいているかということをお皆さんにも見ていただきまして、施設の利用者の皆さん、また維持管理をしてる皆さんにご理解いただきながら既設の現状について、しっかり見える化をして、ご理解いただくように努めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

例として、市有文化ホール、このカルテ、まずは、管理者と経営者でカルテの共有ができていないと、利用者、市民に管理運営の負担について理解を求めることができないと思います。この点について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大沢財政課長。〔財政課長 大沢喜昭君登壇〕

○財政課長（大沢喜昭君）

言われるとおり、情報を共有しなければ意味がありませんので、この後、施設の維持管理をしている所管課に対しまして、利用する方、現在、運営を担っていただいている方ともに情報共有を図るように、施設カルテの活用というものをしっかり浸透するように進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ビーチホールまがたまホールの利用状況、コスト、設備の老朽化と今後について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

平成29年度のビーチホールまがたまの利用状況ですが、ステージのみ利用、スタジオを含めたホール棟の利用件数は411件、延べ利用者2万2,243人、30年度については、29年度と比較して件数・利用者数は減少しています。平成29年度と30年度ですが、施設の管理経費は小規模な修繕により、多少の増減はありますが、約2,000万円程度となっております。舞台の關係の設備に関しましては、更新が必要となっておりまいますので、先ほど市長が答弁申し上げたとおり、将来的な施設の役割分担を考えながら、計画的に対応してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

将来的な理由を考えながら計画するという事は、今ある設備を更新するという事ですか、やめるということですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

将来的に施設の更新が必要な場合は、施設の利用状況等、4館の利用状況等を考えながら検討するというものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ビーチホールまがたまのホールの利用がしづらくなったという市民の声を聞きます。それはなぜ

なのか、担当課ではどう把握されていますか。また、その対策はとられていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

平成30年度までは、ビーチホールまがたまは福祉事務所所管で、社会福祉協議会がホール運営を行っており、経験豊富な職員がおりましたので、利用者には手厚い対応をされていたと理解しております。その経験豊富な職員が退職されて、ことし4月から市民会館がホール運営を行っており、ことし6月に職員を採用して、委託業者とともに研修を重ねて、ホール運営の体制を整えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

お答えいただけてないんですね。しづらなくなったという、利用がしづらなくなったというその原因は、どこにあるのかをちゃんと調べて把握したのかと。その対策は捉えているかということ伺ったんです。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

利用者の皆様に対しましては、今まで細部の打ち合わせが行われなくても、舞台運営に支障がなかったのではないかと、打ち合わせ等の手間が煩わしさにつながってるとは思っていないかというふうには推察しております。今後は、利用者に対して、より一層理解を求めているだけという説明等、また舞台運営がスムーズに行われるように対応してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ホールの管理運営が、市民会館のほうに移管されて、市民会館がみんな見るようになった。これが原因なんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

そのようには理解しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

利用者の声をよく聞いてください。ホールの利用は、コストと設備、そして運営に携わる人によって変わると思います。金がなくなっていくから、利用料金を上げます。設備への投資は控えます。運営に携わる人も確保が難しく、利用者の皆さんのお世話を十分できませんでは、結果的に使われないのに金だけがかかる、床面積がふえていくだけということになりますよね。糸魚川市の問題はここにあるんですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

ホールの管理運営につきましては、今まで以上にできるだけ利用者の皆さんの要望に応えられるように、これからも努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

利用者の皆さんとしっかり話し合いをして、その上でのファシリティマネジメントだと思います。ファシリティマネジメントは、議会では総務文教常任委員会の重要な所管事項ですが、私も佐倉市で学んできたことを生かして、今後も一般質問で取り上げてまいりたいと思います。では、広域観光連携の2回目の質問です。

北アルプス日本海広域観光連携会議の概要と年度年度の予算、取り組んできた事業、その効果の検証、特に情報発信の部分を詳細に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

北アルプス日本海広域観光連携会議につきましては、北陸新幹線糸魚川駅を中心とした広域観光を推進するため、糸魚川市、上越市、長野県大町市、白馬村、小谷村、富山県朝日町の6市町村と関係する県の地域振興局、観光商工団体、交通事業者の27団体で構成いたしております、平成25年の8月に設立したものでございます。予算につきましては、25年度が425万円、26年度が1,300万円、27年度が1,125万3,000円、28年度が1,205万円、29年度が835万9,000円、30年度が845万円、令和元年度が906万3,000円となっております。

また、取り組んできた主な事業といたしましては、パンフレットやPR動画の作成、テレビ番組・ホームページ等による情報発信、誘客キャンペーンの実施、訪日プロモーション地方連携事業、海外メディア、旅行会社の招請、エージェントのモニターツアーの実施等でございます。

効果といたしましては、白馬バレーや立山黒部など周辺地域の観光地との連携によるプロモーション

ョンにより、少しずつではありますが、誘客が図られてきているものと考えております。今後とも、より一層情報発信に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

たしか北アルプス日本海広域観光連携で作成した、糸魚川市出身の人気タレント横澤夏子さんの動画があって、私が、その活用を一般質問し、当時の観光課長が生かしていくと答弁いただいたと思います。どうなりましたか。

また、何かほかに際立った情報発信をして、効果を上げていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

横澤夏子さんの動画につきましては、ユーチューブにアップしているほか、東京ですとか大阪なので行われます各種の誘客キャンペーンなどで上映させていただいております。今後とも、効果的な情報発信のあり方について研究してまいりたいと思っておりますし、取り組んでまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川市のホームページのトップから、この動画見にいけますか。動画を探すのに、私、大変苦慮して、結局見つけられなかったんですね。

それと何か際立った情報発信をして、効果を上げていますかという質問もしております。その点もお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

北アルプス日本海広域観光連携会議で検索した場合には、出てくることは確認しておりますけども、市のホームページから入っていく分につきましては、詳細なリンクについては確認をとっておりません。

特に際立った情報発信ということですが、今、このユーチューブにアップしているほか、各キャンペーンでの上映ということにしておりまして、今後とも、何といたしますか生まれた情報の中から限られた情報を探すということが困難な、情報がかなり豊富にありますので、その点についても研究してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ヤフーで検索すると、確かに協議会の参加市町村ごとに撮影されたサイクルプロモーション動画がありますが、昨年4月22日から、ことし6月20日まで、1年2カ月での視聴数が、白馬村が192、上越市が72、小谷村が54、朝日町が42、糸魚川市が62回と、まるで見てもらえていません。これどうしますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご指摘のサイクリングのプロモーション動画につきましては、昨年度、訪日プロモーションの素材として作成したものでございます。自転車関係のイベント等で使用しているものでございまして、その後、昨年春にユーチューブにアップしたものでございまして、ご指摘のとおり視聴回数が上がっていないのが現状でございます。今後、これらも含めまして、リンクの張り方ですとか、検索でもマッチの仕方等含めて、研究して取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

北アルプス日本海広域観光連携のフェイスブック、ことしに入って更新したのは何回ですか。また、その内容はどんなものでしたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

連携会議のフェイスブックにつきましては、ことしに入りまして、10回更新しておりまして、その内容は、構成市町村の観光情報やイベントの案内等でございます。今後、投稿の内容を見ますとともに、より積極的な情報発信をしていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ここでの情報発信は、糸魚川市のためのもんだということ、もっと真剣に取り組んでいただきたいと思うんです。情報発信について、統括的に見ているところはどこの部署ですか。各課に任せただけじゃだめですよ。総務課じゃないんですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

市のホームページを含めた全体の情報発信、広報部門というのは、総務課が担っております。今ご指摘の質問を含めまして、より積極的な市の情報発信に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

努めてまいりたいというからには、真剣に取り組んでください。今のままでは、ただ会議体をつくって、予算消化をしているだけじゃないですか。時間と人件費の無駄遣いですよ。

糸魚川は、インバウンド対応でも大きくおくれをとっています。

こちらをごらんください。

私は、フェイスブックでこの地図と記事を知りました。これは、ことし7月から来年3月実施予定のJR東日本によるインバウンド向けの企画、北陸・飛騨・信州エリア一帯の魅力を発信し、北陸新幹線を利用した広域観光、周遊ルートとして誘客を図るプロモーションの説明図ですが、ご存じですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今ほどの図は、金沢市、長野市、北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会、JR西日本長野支社の4社が、訪日外国人旅行者向けに北陸・飛騨・信州エリアの一体の魅力を発信し、北陸新幹線を利用した広域観光周遊ルートとして、誘客を図るための協働プロモーションのイメージ図であるというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ごらんのとおり広域観光連携会議のエリアが、すっぱり抜けてます。これが今の実情ですよ。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その実情というのはどういうことか、私は理解できませんが、しかし、いろんな目的を持った

ろいろ対応があると思っております。それに沿って、出てくるものと思っておるわけでありますが、やはり我々も情報発信をさせていただきとる。

また、我々のそういったいろんな活動の中にも参画いただいておりますJR西、JR東の参画もある中において、そういったやはり空白をされるということは、非常にゆゆしき問題と捉えて、これからの対応の中でしっかり考えなくてはいけないと思っておりますし、我々もやはり北アルプス広域観光連携会議の中では、いろいろ対応をしております。そういう中においては、ほかのところは明記してないところもあるわけでありまして。その辺を考えた中で、我々やはり一番核となる鉄道会社との連携をしっかりやっていくことが大切かと思っております。いろいろデスティネーションキャンペーンなど等もあるわけでありまして、そういったことを利用しながら我々の存在感をしっかり示していかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

存在感も大事ですけど、やはり数字として出てこない、なかなか納得できないものがあると思います。

そこで、いま一度、広域観光連携会議の目的と今後の取り組みについて、また、エリアでの入込客の目標値、インバウンドの目標値、経済効果の目標値について、何年先にどうなるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

北アルプス日本海広域観光連携会議につきましては、北陸新幹線糸魚川駅を中心といたしました広域観光連携を推進して、交流人口を拡大することを目的としております。現在、具体的な数値目標は設定しておりませんが、日本海と北アルプスの広域連携によりまして、各地域の個性や魅力のアピールに努め、アクティビティですとか、食などの活用によりまして誘客に努め、引き続き、交流人口の拡大と新幹線糸魚川駅の乗降者数の増加を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、やはり実数的なものは、これからどのように上げていけばいいのかというのは大事になってくるかと思っております。

しかし、現実にも今、北陸新幹線が開業して以来、糸魚川駅の乗降客がふえておるとお聞きいたしておるわけでごさいます、そういったところがやはり、実数はわからないにしても、ふえておる部分が、我々その活動の成果ではないかなと思っておりますし、白馬観光の関係でバスが糸魚川の駅にも駐車することが目に見える部分がございます。そういったことを考えるとやはり、ある意味

情報発信の1つの成果ではないかと捉えているわけでごさいます、しかし、決してこれでよしと捉えておるわけではごさいません。まだまだおくれる部分が結構多く見受けられるわけでごさいますので、しっかりとその辺はやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

やはり数字、大事だと思いますね。目標値を出せるか出せないか、そこに真価が問われてくると思います、まずはですね。

エリア内のアクティビティの1つが、地方鉄道であります。広域観光連携における大糸線の活用について、担当課の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

大糸線は、自然豊かで風光明媚な非常に魅力のある鉄道であると思っております。これらの魅力を今後とも誘客に生かしてまいりたいと考えておりますが、特に糸魚川南小谷間につきましては、サイクルトレインですとか、輪行バッグの活用を通じまして、サイクリストの誘客について図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

大糸線の廃止が心配されています。大糸線がなくなると、観光入込客が減るという仮説のもとに、このエリアの観光戦略を立ててみてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

大糸線は、当地域の貴重な観光資源であり、今後、多くのインバウンドが訪問したり、また、今ある資産が見直される時代が来ることが予想されますので、引き続き、大糸線活性化協議会等とも連携しながら、大糸線の活用について考えてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

入込客の目標値、その数字の根拠、そういったものをみんなで話し合っていないんじゃないかと思うんですよ。だから、いつまでたってもイメージのような話ばかりなんですよね。それでは戦略

とは言えません。

もう一つ、広域観光連携におけるえちごトキめき鉄道と、あいの風とやま鉄道の活用について、担当課の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この2つの鉄道につきましては、日本海の海岸線を通ってる鉄道でございまして、この日本海の海岸線を生かしたアクティビティが魅力の1つであるというふうに考えております。

例えば沿線にサイクリングコースがありますけども、久比岐自転車道と富山湾岸サイクリングコースとを結ぶ道路につきましては、県境の間は狭隘でありますので、例えばこの区間は鉄道としてもらうなどするなど、観光に活用してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今のお話は、ぜひ進めてください。

美しい日本海に沿って走る地方鉄道と、ヒスイが拾える朝日町と糸魚川市の海岸に世界中の注目が集まり、国内外からの観光客がやってくる観光戦略を立ててみてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご提案のとおり両地域の海岸におきましては、国石であるヒスイのほか、さまざまな石を拾うことができます。これらを環境保全や教育など、ジオパークの理念に配慮しつつ、当地域の特異的な特徴として発信することが必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

観光の戦略、理念も大事ですけど、やっぱり美しさ・魅力をストレートに伝える。こういうふうにはいかないと、ジオパークが入り口になって、お客さんがたくさん来るとは私は思えない。そこら辺ももう一回考え直していただきたいと思います。

もう一つ、糸魚川駅と押上新駅に子供たちがやってくる仕掛けについて担当課の考えを伺います。

私からの提案は、親子で鉄道で糸魚川へ来て、ジオラマで遊ぶ。ジオパルのトワイライトエクスプレスで遊ぶ。リゾート列車雪月花を見学する。押上海岸でヒスイを拾って学芸員に鑑定してもらう。それを夏休みの宿題とするなど、ここはジオパークですよね。大糸線の沿線の子供をターゲットにしたらと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線の沿線にお住まいの方、とりわけ長野県の皆様にとりましては、皆様にとっての海、糸魚川海岸ジオサイトでもございまして、国石ヒスイの名前のついた押上のヒスイ海岸というものは、大変魅力的な観光資源であると私どもも認識しております。それがヒスイ海岸ですとか、ミュージアム、美術館、ジオパルなどのパッケージとした回遊性ですとか、移動手段の確保、あとそこに糸魚川ならではの食の提供ですとか、それらを地域とも連携した受け入れ体制、糸魚川に長く滞在していただけるような工夫、糸魚川の魅力を知っていただくような取り組みというものを進めていきたいというふうに考えております。

あわせまして、移動手段としての鉄道の安全性ですとか、車ではなくて鉄道での移動の楽しさというものをアピールすることで、親子での利用促進ですとか、それら思い出づくりの一端を担うような取り組みができればというふうに、そういう取り組みにつなげていきたいというふうに私どもは考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

鉄道に関する施設の見学でありますとか、海岸での石拾いなどにつきましては、当市でなければできない魅力的な体験だと思っておりますので、着地型の旅行商品として検討・提案してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今ほどは、両課長さんからよいご答弁をいただいたと思っております。ぜひ進めていただきたいと思っております。

そこで、広域観光連携会議をただの会議体とせずに、もっとアクティブなものにすべきだと思います。私は、白馬との連携で、双方向性のある戦略を官民連携で強く進めていく必要があると思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ご提言のとおり、特に海のある糸魚川と白馬バレーの連携につきましては、大変重要であるとい

うふうに考えております。それも現時点でも民間での取引が、流れが始まっていたりしておりますが、官民で進めることが必要であると思っております、両者がウイン・ウインの関係で観光誘客を進めることができるよう広域観光連携会議を通じまして、より一層の連携を深めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そのときに期待するのは、青年会議所と若い人たちのつながりです。そこへ働きかけをうまく、そして長く続くようなものとして、オール糸魚川の英知を結集して、課題解決をしていただきたい。今これからの取り組みを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在も続いております白馬からのシーフードシャトルバスにつきましては、もともと青年会議所の皆さんのアイデアからスタートした取り組みでございまして、現在でも地域にさまざまな波及効果をもたらしているものというふうに考えております。若者の行動力とネットワークは、非常にパワーがあると思っておりますので、現在でもいろいろな意見交換なり、取り組みがされておりますが、今後ともみんなで知恵を出し合ひまして、官民が一体となって進んでいく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

それでは、4つ目の糸魚川市の責任で進める復興再生事業の2回目の質問になります。

今、議会で問題になっているにぎわい広場建物の設計変更について伺います。

昨年12月から1億8,600万円で鉄骨2階建て建物をつくると市民に説明してきたものを、ことし4月下旬に設計業者から予算を1億円もオーバーすると連絡があつて、議会に報告もせずに行政の判断で変更しました。これを進めた行政の担当は、どなたですか。また、設計事務所は、どちらの、どなたですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

今回の見直しの作業を進めたのは、復興推進課及び技術的仕事をしていただいている建設課と復

興推進課ということになります。

設計事務所は、ワークヴィジョンズでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

設計変更により、回数と高さと面積と開口部とイメージが変わりました。詳細に説明してください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

全体としては、一部2階建て450平米ぐらいの建物で設計を進めておりましたが、見直しでは、オール平家建て350平米ほどの建物と。高さにつきましては、7.4メートルを5.8メートルに変更といった内容になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

設計変更により、坪当たりの工事費が変わりました。変更前後を比較して、詳細に説明してください。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前11時19分 休憩〉

〈午前11時20分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

それから、今ほどの内容で、見直し前のものでいきますと、坪当たりおおむね136万円、見直し後でいきますと坪当たり173万円、これは現在予算化されている中での工事費、予定していた事業費1億8,600万という説明を申し上げておりましたが、それによって算出したものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

議会に何も言わずに勝手に設計を変えて、確認申請までしてしまう。これは非常識な行いです。議会の信頼を損なう大きな問題になると担当者も設計事務所も思わなかったのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

議会の報告等についておくれた、そういったあたりについては、我々担当として、反省すべき点であるというふうに考えております。

ただ、今回、要するに予算がオーバーしそうだとわかった時点が、議会構成の再編と絡んで、どのタイミングでと。なかなか、じゃあオーバーしているけど、どういうふうに解決していこうかという、そういった結論といたしますか、そういった方向もなかなか固まらない中で説明するタイミングを逸してしまったといったふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

今回の事案につきましては、私どもも4月の下旬にこのお話をお聞きしたといったことでございまして、その後、どうやればこの建物になるべく早く建つのかといったことについて、内部でいろいろ検討をさせていただきました。それに時間を費やして、お話しした結果が、今の時点になってしまったといったことでございまして、特別委員会でも少しお話しさせていただきましたけれども、遅くなったことについては、大変申しわけなかったと思っております。今後、そういった事案が出ましたら、結果を求めるといったことよりは、そういう事案についてなるべく早く議会の皆さんにもお知らせした上でしっかりと方向性を確認しつつ、進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

一生懸命やっていたら、理解できる面もあるんですけど、ただ、タイミングを逃した、結果的にそうになってしまって申しわけないというのは、今や糸魚川市行政の常套句になっていませんか。またですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

過去になかなか事案として議会の説明がおくれたといったことも何回かあったことについては、承知しております。そのたびごとにそういうお話をさせていただいて、大変申しわけなく思っておりますけれども、やはりその部分のしっかりとした思いが、しっかりとみんなで共有できてなかったといったところがあるのかなと思っております。なるべく早く、どうやったらできるのかなといったことばかりに思いが行って、皆さんとそういう事案を共有して、皆さんとともに考えるといったことを失念しておったことが、こういう結果につながったと思っております。

何度も重ねて申し上げますけれども、今後そのようなことのないような形で進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

過去のことに触れられましたけど、今回は、とにかく無責任です。予算オーバーを理由に勝手に設計変更し、建設を急ぐことは遺憾であります。そもそも防火水槽の上に重量のある鉄骨の建物をつくる設計に無理があったんです。法外な金をかけることになったんです。これはどなたの考えですか。木村元副市長ですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

今回のこの計画につきましては、職員が個人でというわけではなく、やはり職員が復興のまちづくりの中で、その施策として考え、実施してきているものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

今ほどのご質問で、防火水槽が下にあるために高価になっているといったご質問でございましたけれども、下に防火水槽はありますが、そのために非常に工事費が上がり上がっているというふうには考えてございません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そうでしょうかね。やはり防火水槽があるから、難しい工事になってるんじゃないですか。それから、重量がある建物をその上に建てようとするから、基礎、それから地盤改良等でお金がかかるんじゃないですか。そういうことがあるから、私はお金かかっているって申し上げているんです。

法外に金のかかる建物は、誰のための何のための建設なのでしょう。行政の行政による行政のための復興事業、大火後の視察に来る人たちに示せるためのものなんじゃないですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

今回の計画につきましては、一昨年からになります。広場としてどのように活用するかといった話を市民からご意見をいただきながら、その中でスタートしたものの中から、今回の計画になっております。行政の考えのみで今回の計画に至っているわけではありませんし、今後、つくっていった中で、やはりどのように活用していただくかということも時々しっかりいろんな方々からご意見を伺うなどして、今回の計画を進めてきているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民に責任をなすりつけちゃだめですよ。責任転換ですよ。だから無責任だって言ってるんです。防火水槽埋めるって決めたのは誰ですか。防火水槽の上に鉄骨の建物を配置しようと考えたのは誰ですか、行政でしょ、違いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

防火水槽の上に今回の計画をしたといったこと、その計画自体は、当然、行政のほうで計画しております。防火水槽の上という建物については、それなりの構造の、しっかり検討した上で十分耐えられるという設計の中で進めております。

今回の建物につきましては、防火水槽がなくてもやはり、あそこの地盤からすると地盤改良等、

必要であつたらうといったところから、先ほど部長が申し上げましたとおり、防火水槽の上にあるから非常に大きな事業費がかかったといったものではないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ならば、鉄骨の建物にしようとしたのは誰ですか。鉄骨にしたから、くい基礎にお金かかっているんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

建物の計画の中でオープンスペース等の大きな空間を計画するときに、今回、建物の内容としては鉄骨が適正であろうというふうに比較をした上での話でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

現在、計画している建物は、柱状改良といった形で基礎地盤を改良する構造になっております。その工法につきましては、たとえ木造であっても、いろんな建物がございます。一般住宅であってもある程度の地盤であれば、基礎がない場合もありますけれども、今いろんなところで建てるのを見ますと、柱状改良とかいったことについては、特別な工法ではございませんし、普通に採用されてる工法で、それによって多額の費用を認めるといったことではないというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

そうですか。ならば、何が原因でこんな高額な建物になるんですか、坪160万、失礼、173万ですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

前にも何回もご説明させていただいておりますが、公共工事における建築物の事業費といいますが、先ほど平米当たり幾らだといったお話もございましたけれども、これについては、民間の皆さ

んが思っておられるような工事と同じような形で比較されると非常に高いという話になります。

しかし、この金額の高さにつきましては、前もお話ししましたけれども、国の補助金をいただいて、工事を行っている上で適正な歩掛かり、あるいは単価を用いまして、民間では余り見られない工事の内容の、何ていいますか工事の資料をいろいろ業者さんにつくっていただいたり、そういったことも含めて、工事管理をしっかりした上での単価といったことをございまして、ほかの公共物を比較しましても、今回の工事で作られる建物が、特に高いといった形で考えてるものではございません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

毎回話ししてるのに何でわからないかというお話ですけどね、議会にまずちゃんと説明をして、了解もらった上で進めてないから、私何度も聞いてるんです。ましてや今回、設計を変更してるじゃないですか。どうせ変更するんだったら、もっとコストダウンできるものに基本的なところから考え直したらよかったんじゃないですかね。鉄骨と木造とでは、基礎の大きさも工事費も違いますよ。基礎工事に金がかからない木造建築で、交流スペースとオープンキッチンと地場産食材売り場を備えた建物を計画すべきであったんです。これからでも設計変更したらいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えします。

今回の建物の設計の初期の段階では、オープンスペースの空間、それだけをとるとなると通常の一般の木造構造では難しいだろうと。そういったところから、もし木造にするにしても、要は集成材、なおかつ今回、建物は、準耐火建築物の仕様にしております。そういったところから、経費等を考えた上で鉄骨という選択をしているものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

結果的にそうだとことを繰り返しておっしゃるばかりですよ。その根拠、全く示されません。

今回の強引な進め方は、未来の子供たちに負担をかける不良資産をつくることになりかねません。慌てなくていいんです。未来を見据えて、暮らしやすいまちを市民とともにこつこつとつくるのが市長の仕事、責任ではないですか。米田市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、この計画いたしているのは、復興まちづくり計画の中で位置づけておるわけでありまして。そして、やはり復興という大火からの大きな使命を持ったこととございますので、やはり時間を持って、そして国の支援をいただく中で、今進めてきたわけとございます。その途中途中では、いろんな皆様方のご意見をお聞きし、そして、それを具体的に今進めてきてるわけとございます。そして、これにつきましても計画的に予算づけをさせていただきました。予算を大きくオーバーするということで、今回、圧縮をさせていただきました。

そういったことで、どちらかをとればどちらかが大きく変化するわけとございます。今回は、やはり予算に合わせさせていただいたということとご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

近くに新鮮な食材を買えるところが欲しいという被災者市民の声は横に置いて、復興の計画だけを進めようという行政の進め方、いかがなものかなと思います。

終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の質問をさせていただきます。

1、民生委員・児童委員について。

全国で親による子供の虐待を初めとした児童が犠牲になる事件が続いています。また、認知症や老老介護がふえ、孤独死も報道されております。

糸魚川市では過疎化と高齢化が進み、民生委員の果たす役割は年々大きくなってきていると思われます。委員を推薦する際に当たっても各地域で困っている話を聞いています。糸魚川市の現状と対策について伺います。

(1) 糸魚川市での民生委員の配置基準と委員の人数は、どうなっているか伺います。

(2) 12月1日からの新民生委員の選任についてはどんな進捗状況か伺います。

(3) 民生委員は無給のボランティア公務員とも言われるが、市で交付できる活動費については、糸魚川市ではどうなっているか伺います。

(4) 今後、ひとり暮らしがふえ、山間地では民生委員の適任者・適格者も減ってくると思いま